

※文字の大きさは Meiryō UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真1) (表1) などと文中に記載し、右ページに(写真1) (表1) などと表記の上、貼り付けてください。
 ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。
 ※いずれの場合も、必ず A 3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

※事務局記入欄

【様式 2】

No. A-52

部門名：カリキュラム・マネジメント実践部門 エントリー名：高知市立江陽小学校

活動名：カリマネ江陽方式で改善 ～合言葉は「これってカリマネ?!」～

解決すべき課題：

- カリキュラム・マネジメントに必要な要素である学校の教育目標、学校経営計画、教科等の全体計画、年間指導計画等は作成し実践しているが、目標の共有や具現化に向けての検討が十分でないため、エネルギーが分散している。(図1) 働き方改革の視点から考えても課題である。
- 新学習指導要領の趣旨の理解を図っているが、「カリキュラム・マネジメントとは、具体的にどうすることなのか」、その根幹となることを捉えながら日常の教育活動において実践していくことが難しい。

目標・方針：

- 本校の子どもたちに付けたい資質・能力を学校の教育目標として焦点化するとともに、全ての計画や取組の目標を資質・能力の育成という視点でつなぐ。(図2)
- 学校の教育目標を実現するための取組を4部会(授業研究部・学力体力向上部・人間関係づくり部・児童理解部)や学年部会で具体化し、実践しながら改善を続ける。
- 全教職員が、カリキュラム・マネジメントによる学校改善の主体者となる。

活動内容：

- カリキュラム・マネジメントの根幹である「目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てる」ために、次のような過程を経て「カリマネ江陽方式」による改善を図った。
 - 付けたい資質・能力について全教職員で協議→保護者や地域からも意見をもらって焦点化(図4)
 - 実現のための具体的な取組について4部会や学年部会で検討→提案→実践(図5)
 - 学校の教育目標の見直し→次年度の教育計画に反映
 - グランドデザイン、各教科等の全体計画、年間指導計画の見直し
 - 単元配列表において付けたい資質・能力の見える化→重点単元の単元計画作成へ
- 部会や学年だけでなく、個人レベルでも学校改善につながることをやってみる、つまり、日常的に試行錯誤しながらカリマネの取組を発信する機会を校内研修等に設定し相互評価と見える化を行った。(図3)

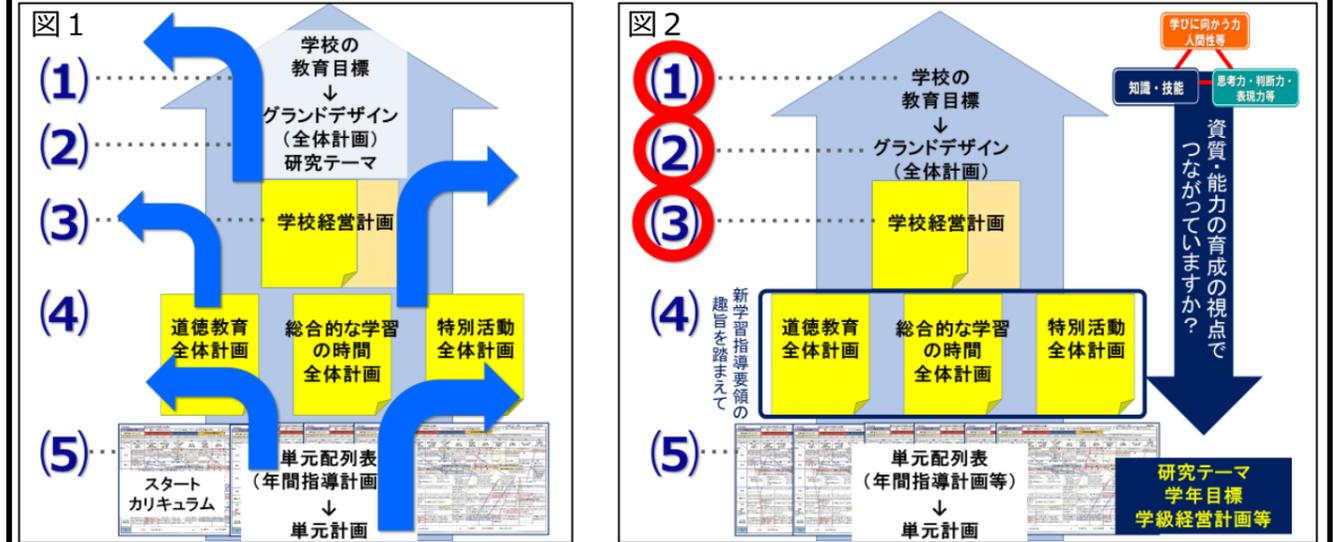
活動の成果：

- 育てたい資質・能力を焦点化して学校の教育目標を見直し、その実現のためのツールとして学校経営計画を位置付け、各教科等の全体計画や単元配列表等を連動させることで、教職員が納得感を持ち、重点を意識して教育活動を行うようになった。(教職員アンケート 改善率 4月→11月 98%)
- 4部会や学年部会の取組が、付けたい資質・能力の育成に向けて具体的・重点的に動き始めたことから、児童の学級生活に対する満足度も高まっている。「楽しい学校生活を送るためのアンケート Q-U」における学級生活満足群の平均 本年6月 59.8%→10月 64.3%、特に学級のまとまり感：+10.5%
- 半信半疑の「これってカリマネ?」から、自信を持って「これってカリマネ!」と言える取組が増え、アイデアを形にして試そうとする実践が増えてきた。(朝学習の国語パークを2学期から全学年で開始、学年ブロックを核とした授業研究の仕組みづくり、学校予算の効率的・計画的運用についての提案など)(図3)

アピールポイント(アイデアや工夫)：

- 全教職員が納得してカリキュラム・マネジメントのプロセスを歩んでいけるように、江陽小ならではのプロセスを創り出し、校内研修で何度も根幹を確かめながら、共通理解のもと取組を進めたこと。
- 「これってカリマネ?!」「少なくとも一石二鳥」「できることはすぐやる」「Before-After の変化を楽しもう」などを合言葉とし、アイデアを形にすることに価値をおき、相互評価からよい循環を生み出したこと。
- 「江陽通信 とものにのびる」(教職員)、「こうよう家だより」(保護者・地域)、「全校集会」(子ども)等における発信内容(カリマネの木や付けたい資質・能力)をそろえることで、発信したいことがぶれず、共通理解が図りやすくなったこと。

Before：せっかくのエネルギーが分散 → **目標・方針**：資質・能力の育成の視点でつなぐ



After：「これってカリマネ?!」から、よい循環が生まれる→実りは子どもたちの資質・能力の育成

図3 カリマネの木



図4

Step2 資質・能力を焦点化する⇒学校教育目標へ

	知	徳	体	焦点化
生きて働く知識・技能の習得	「教科書や資料から必要な情報を取り出す力」を伸ばすこと。	「自分たちの生活や社会のルールやマナー」を学ぶこと。	「健康な生活を送るための基本となる力(呼吸・早寝・朝起き・朝ごはん)」を身に付けること。	生きて働く知識・技能を身に付けた子ども
未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等の育成	「自分の考えを伝え、相手の考えを聴く力」を伸ばすこと。	「相手の考えを聴き、自分の考えを伝える力」を伸ばすこと。	「自分の生活を振り返り、運動や健康の課題を見つけて、よい生活にしたいための方法を考える力」を伸ばすこと。	未知の状況にも思考力・判断力・表現力等を働かせて取り組む子ども
学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性等の涵養	「自分の考えを伝え、相手の考えを聴く力」を伸ばすこと。	「自分の生活を振り返り、運動や健康の課題を見つけて、よい生活にしたいための方法を考える力」を伸ばすこと。	「自分の生活を振り返り、運動や健康の課題を見つけて、よい生活にしたいための方法を考える力」を伸ばすこと。	学んだことを他教科等や生活に生かそうとする子ども

図5

